

一人一人が考えよう 野生動物との共存

自然豊かな丹沢は、多くの野生動物が生息するほか、私たちの生活にも深くかかわり、悪影響をもたらしている。しかし、最近では人とのかかわりや、生活環境の変化などで、けがや病気をする野生動物が増えている。野生動物の保護をして、いる人を減らして、私たちが生き生きと暮らそう。

六月、備付いた生物たち

五月十六日、野生動物保護功績が認められ、市獣医師会が平成二十二年度の優良団体として、保護士賞の表彰状を贈った。

獣医師会は平成二十二年設立以来、病やけがをしている野生動物を捕らねると、市内に野生動物を受け入れる施設がなかったため、厚木市の職員共済組合センターと連携し、市内の環境保全センターで受け入れていた。

「獣医師会を設立したときに、野生動物の受け入れをしようという目標があった。いいことだと思う。」「動物が下すのは、獣医師会会長の山口恭弘さん(厚木市)。現在の病院で受け入れをしてくれている。平成十八回は会員が負担している。平成二十一年度は五十件を治療し、二十四件を野生に返した。」

市内では、タヌキや野ウサギなども保護されるが、ハトやツバメなどの鳥類が多く、建物の窓に衝突して骨を折ったり、野良猫に襲われるなどの苦悩が主な原因だ。そのほかにも、無許可で仕掛けたわなや交通事故など、人間の脅威によるものもある。

獣医師会では、子どもたちから野生動物に接する機会を創出するように、鳥を捕らせた北東小(平成二十三年に返南が丘小学校)に日本の野鳥の教材図画を寄贈した。また、市立幼稚園や小学

校からの依頼があれば、飼育動物の治療や健康診断、講演なども実施し、動物愛護ボランティア活動もしている。講演会や子供たちには、講演会や「動物と触れ合おう」シリーズとして、野生動物を見学したり、飼育して生かして欲しい。今後は、人と野生動物の共存を通して、人と野生動物が共生できる環境づくりに努力していきたいと山口市長は力強く話してくれた。

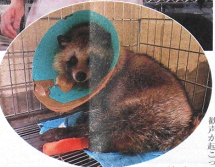
伝える、命の尊厳

市では、平成十九年度から、小学生を対象に、環境教育の実施事業としてのエコスクールを実施している。講座には、理科室と併設されている講義室で、野外で自然や生物の観察するフィールドワーク、企業や団体を講師に迎える企業編の二つのコースを選べ、出張講座を合する。

六月十五日、土小学校の六年一組で、教室裏山動物の仲間をならうが開始され、スライダーを使って保護された野生動物の姿とを介して、一人一人の備付いた生物の写真がともなわれ、備付いた生物の素直な声も聞けた。最後は、保護されているフスビや、ミズウシなどの獣が登壇して、子どもたちの歓声が起った。

当日講師を務めた、野生動物救護の会理事長の渡辺優子さん(川用)は、「野生動物保護の大切さと一緒に、命の大切さも伝えていきたいと思います。」と話す。野生動物救護の会は平成十八年に設立され、平成十八年には約三十人、県自然環境保全センターを拠点に保護された野生動物を保護し戻すための呼びかけや、野生動物の道徳調査に携わった。

「拾われた野鳥も大切に扱われる野鳥も多



足が傷付た保護されたタヌキ、獣医師会環境保全センター」

環境ホスター・環境標語

環境への関心や意識を高めるために、環境ホスターと環境標語を募集します。

環境ホスター

自然環境の部 身近な緑などの自然を守り育てること、生物多様性(地球上にさまざまな生物が生息していること)の保全など

生活環境の部 空き缶などのゴミ捨て防止、地球温暖化対策、電気や水の節約、水や空気をきれいにする呼び掛け(水質浄化・アイドリングストップなど)

応募資格 市内の小・中学生

応募方法 四つ切り用紙を使った作品を9月6日(月)までに小・中学校へ提出

※部ごとに最優秀など合計36点に賞状、記念品を贈呈。最優秀は、はだのこ子アワードの対象になります

環境標語

自然保護の部 緑化推進、生物多様性の保全など

環境美化の部 ゴミの減量、リサイクルの推進など

生活環境の部 地球温暖化防止、省エネの実践

応募資格 市内在住、在勤または在学の人

応募方法 9月6日(月)必着までに、住所、氏名、電話番号、職業、勤務先または学校名、年齢を書き、〒257-8801市役所西庁舎2階環境保全課へ郵送または持参。メール(k-hozen@city.hadano.kanagawa.jp)も可。1人3作品以内、用紙、様式は自由

※部ごとに特選など合計18点に賞状、記念品を贈呈。特選は、はだのこ子アワードの対象になります

問い合わせ 環境保全課(82)9618

問い合わせ 環境保全課(82)668

「備付いた生物たち」

「動物と触れ合おう」シリーズとして、野生動物を見学したり、飼育して生かして欲しい。今後は、人と野生動物の共存を通して、人と野生動物が共生できる環境づくりに努力していきたいと山口市長は力強く話してくれた。

「備付いた生物たち」

「動物と触れ合おう」シリーズとして、野生動物を見学したり、飼育して生かして欲しい。今後は、人と野生動物の共存を通して、人と野生動物が共生できる環境づくりに努力していきたいと山口市長は力強く話してくれた。



生徒に熊まみこミスアとの触れ合い体験をする道徳科委員(左)